

平成14年度美術館ボランティア

静岡県立美術館ボランティアは、開館を控えた前年の1985年から募集と研修を開始し、86年4月の開館と同時に、350人の体制でその活動を始動させた。以来、日本の公立美術館としては最大規模のボランティアとして、美術館と観覧者との架け橋となるべく大きな役割を果たし続けている。

今年度のボランティア活動最大の出来事は、第4回目となる追加募集である。今回の募集に際しては、当館のボランティアが目指すべき姿や抱えている問題を、現存のボランティアと美術館との間で1年をかけて議論し、その成果を研修の内容に反映させた。これは、新規加入者の研修というためだけでなく、新たなボランティアの加入が現存ボランティアへの良い意味の刺激となることを目指したためでもある。募集に対して117名の応募を得、約3ヶ月の研修を経て95名が新たなボランティアとして登録した。

活動人数の推移

昭和61年度	-	350名
昭和62年度	-	307名
昭和63年度	-	260名
平成元年度	-	317名 (新規参加者90名)
平成2年度	-	263名
平成3年度	-	240名
平成4年度	-	223名
平成5年度	-	347名 (新規参加者140名)
平成6年度	-	331名
平成7年度	-	299名
平成8年度	-	282名
平成9年度	-	273名
平成10年度	-	354名 (新規参加者94名)
平成11年度	-	316名
平成12年度	-	297名
平成13年度	-	265名
平成14年度	-	331名 (10月より新規参加者95名)

新規募集

1. 募集要項

- 1) 募集人数 100名
- 2) 応募資格
 - (1) 年齢18歳以上(高校生を除く)の美術を愛する健康な方。
 - (2) 美術館が行う研修講座を受け、毎月1回(午前9時45分～午後4時30分、場合によっては午後5時まで)、1年を通じて責任を持つ

て活動ができる方。

3) 応募締切

2002年6月15日(土) 申込書美術館必着

4) 応募方法

別紙申込書に必要事項をご記入の上、顔写真を貼りつけ、押印して当館宛てに送付。

5) 決定方法

申し込み人数が200名を超えた場合、研修等の実行可能性などを鑑み、第1回の抽選を行い、200名に絞り込みを行う。

更に、指定の研修(全8回)をすべて受講して頂き、その上で当館ボランティアとして登録する意志を確認する。この段階で希望者数が100名を超えた場合は第2回の抽選を行い、最終的に100名を登録する。

抽選は、活動日より人数の偏りが出ないように、活動希望曜日を検討した上で行う場合がある。活動場所や活動に必要な適正人数などにより募集人数を限らせて頂いており、ご希望下さった方全てを受け入れることができない場合がある。

6) 活動開始

2002年10月1日(火)から、毎月1回

2. 応募状況

6月15日(土) 申し込み着分で117名

3. 研修

1) 研修期間と登録までの概要:

研修期間:2002年6月22日(土)～9月11日(水)
 研修は、講義と実習を合わせて全8回。は選択で、どちらかに出席する。その他は必須とし、8回の講義・実習を全て受講した方に対してボランティア登録の意志を確認する。その段階で登録希望者多数の場合は、活動曜日による人数の配分を加味した上で抽選し、最終的に100名を登録する。

2) 研修スケジュールと内容

<講義> 場所:静岡県立美術館講堂

6月22日(土) 13:30～15:00

オリエンテーション (学芸員・李):活動説明・研修説明

6月23日(日) 14:00～15:30

『相国寺・金閣銀閣秘宝展』鑑賞講座 (学芸員・森):日本の古美術

6月29日(土) 13:30～14:30

講演「ボランティアの責任と魅力」小野田全弘氏(静岡県ボランティア協会事務局長)

14：40～15：20 目の不自由な方の彫刻の触察とは (学芸員・南)

7月21日(日)

13：30～14：30 美術館の業務 (主任学芸員・飯田)

14：40～15：40 美術館の業務 (学芸員・新田)

8月18日(日) 14：00～15：30

『今、ここにある風景』展鑑賞講座 (学芸員・李)

：現代美術

<実習>

班別活動体験 2回

7月2日(火)～7月14日(日)、7月27日(土)～9月11日(水)のうち2日 10：00～16：30 ボランティア室他 (実習日は前もって指定)

グループD活動 (資料整理) 体験 1回

6月24日、7月1日・8日・29日、8月5日・26日、9月2日 (いずれも月曜日) のうち1日 13：00～16：00 図書閲覧室 (実習日は前もって指定)

ギャラリートーク見学 1回 6月27日(木)・30日(日)・7月4日(木)・6日(土)・11日(木)・14日(日) (相国寺展ギャラリートーク)

7月13日(土)・27日(土)・8月10日(土)・24日(土) (収蔵品展ギャラリートーク) 14：00～14：20 又は 15：00～15：20 展示室

上記日程のうち1回

3) 研修結果と通常活動の開始

117名の応募者を得て始まった研修では、無償のボランティアといえどもきちんと責任を分担し合う仕事であり、責任感を持って行動することと、学ぶ志を自ら励まして自己研鑽を積む事が大切であるという点が強調された。

ほとんどの応募者が研修を最後まで受けたが、目的の違いや日程調整の必要などから最終的な意志確認の段階で登録辞退をした方が数名出たため、結果的に抽選なしで、適正人数である95名を登録することとなった。

10月1日から既存のボランティアとともに通常の活動を始めたが、研修の成果は大きく、責任感と活動への強い意欲を持って日々の仕事に臨む姿が、既存のボランティアに対しても大きな刺激となり、新旧のボランティアが相互に刺激し合う良い関係が醸成されつつある。

新規ボランティア95名を加え、10月1日現在での実質活動者数は331名 (事情により活動一

時休止中を含めると375名) となった。

基本の活動と内容・役割

全体を24班に分け、4週に1回を基本活動日として活動している。

内容は、来館者と直接接する「来館者対応」と、縁の下の力持ちとして来館者からは見えないところで美術館の業務を様々な面から助ける「内部の活動」の2種がある。この2つが基本活動となり、更に希望する有志によるグループ活動がある。

また、新規ボランティアが活動に慣れた年度末近くから、団体での観覧者に対して美術館の概容などをごく簡単に紹介する「団体概説」が来館者対応として加わった。

この他に、収蔵品展や企画展の鑑賞研修も大切な活動である。収蔵品展はいつでも鑑賞することができ、美術館の所蔵作品について造詣を深めることに各人が努めている。企画展についても積極的に鑑賞研修を進めるため、活動日以外にも1企画展について1回の鑑賞を認めている。各展覧会ではボランティアのみを対象とした「ボランティア・プレビュー」も開催され、担当学芸員による解説と鑑賞が行われるので、いち早く展覧会の内容把握に努め、その魅力を広く館外へ広めるといった対外的な活動に役立っている。

【基本活動】

班編制により月1回の活動日に全てのボランティアが行う活動。

来館者対応：

- (1) インフォメーションカウンター・音声ガイドの案内
- (2) 図書閲覧室の運営・公開端末利用の受付
- (3) 視覚に障害のある方への「彫刻を触って鑑賞するプログラム」のガイドやその補助、お体に障害のある方への補助など
- (4) 団体観覧者に対するオリエンテーションや資料配布など

内部の活動：

- (1) 他館の展覧会ポスターの館内での掲示、管理
- (2) 新聞記事の切り抜きや整理など、美術館活動の基本資料の整備
- (3) 各種講座や研修の受講及び自己研修
- (4) 館外での当館開催展や諸活動の広報
- (5) その他、美術館の要請に応じて美術館活動を助けること

【グループ活動】

有志による活動。美術館の要望などにより呼びかけで行われています。

- (1) ギャラリー・トーク（展示室での来館者への作品解説・毎月第2第4土曜日他）
 - (2) グループD（新聞・文献資料の詳細な分類整理）
 - (3) 桐の会（蔵書資料などのパソコン入力チーム）
- * グループ活動のみの参加は不可。必ず基本活動に参加した上で、希望の方がグループ活動を行う。
* この他、ボランティア研修旅行の企画実行を担当する。

【研修旅行委員】

（指定活動曜日のボランティアから選出）、「彫刻を触って鑑賞するプログラム」実施の中心となる。

【触察研修スタッフ】

（有志）、実技室での教育普及イベントを補助する。

【実技室ボランティア】

（有志）があり、ボランティア相互の連絡調整につとめる。

【班長会】

（各班長・副班長で構成）とともに、ボランティア活動の充実に努めている。

年間活動記録

- 4月1日 258名で活動開始
- 5月13日 ボランティア総会
 - ・三重県立美術館ボランティア『櫛の会』代表のお話を聞く
 - ・新規募集と研修内容の案内及び新規加入者を含めた9月末の班替えについて説明
- 5月下旬 新規ボランティア募集開始
- 6月3日 ボランティア研修旅行委員会第1回（以後、旅行当日までに全7回開催）
- 6月15日 新規ボランティア応募締切
- 6月22日 新規ボランティア研修開始
- 9月11日 新規ボランティア研修終了・登録意志の確認
- 9月30日 ボランティア全体会（総会を改称）・新規ボランティアを含めた新たな班編制実施
- 10月1日 新班編制にてのボランティア活動開始
- 11月10日 ボランティア研修旅行（ビュフェ美術館・ポーラ美術館）92名参加、随伴：泰井良（学芸員）・片瀬幸江（総務課主事）
- 11月14日 ボランティア研修旅行（ビュフェ美術館・ポーラ美術館）99名参加、随伴：李美那・

村上敬（学芸員）

- 12月5日 研修旅行委員会反省会
 - 2月4日 研修旅行委員会報告会
 - 2月23日 下半期班長会
 - 3月2日 研修旅行委員会引継ぎ会
- 下半期ボランティア全体会
- ・平成14年度のまとめと報告
 - ・ボランティアの存在意義についてディスカッション
 - ・平成15年度の活動について

広報サポーター

平成13年度に発足した広報サポーターは、「美術館と展覧会の広報」のみを担う、美術館に通って来ないボランティア活動として定着を見せている。ボランティア活動辞退者や、新規ボランティアの登録辞退者をはじめ、遠隔地や、時間の都合のつきにくい会社員の方など、多くの申し込みを受けて、平成14年度末には174名の登録人数となっている。

広報サポーターに義務付けている「活動アンケート」によると、積極的な広報活動の展開とともに、参加を認めているボランティア・プレビューへの出席率が非常に高いことが判った。理由として「展覧会内容を知ることが積極的な広報活動にとって非常に重要であるから」というものが多く、ボランティア自身のプレビュー出席者が減少していることと好対照を見せた。そのため、年度末のボランティア全体会ではこの点を問題として取上げたが、このことは館内での活動だけでなく館外での広報活動の再認識と、ボランティアの存在意義を考える良いきっかけとなった。

広報サポーターは、広報の推進のみにとどまらず、ボランティア活動そのものへの刺激剤としても働く結果となり、当館のボランティア活動全体をより活性化させることに貢献している。

1) 「広報サポーター」申込方法

- ・申込用紙に記入し、ファックスか郵送で申し込む
- ・当館のホームページから申込内容をメールで送信する

2) 「広報サポーター」に登録すると

- ・展覧会ポスターやチラシ、イベント情報が随時送られてくる
- ・展覧会のボランティア・プレビューに参加できる
- ・広報サポーター証の発行を受ける

3) 「広報サポーター」の義務

- ・ 展覧会やイベントの情報を地域や職場に広める
- ・ 効果的なポスター掲示場所等の情報を美術館に寄せる
- ・ 年に一度、活動内容をアンケートの形で報告する